

第47回群馬放射線腫瘍研究会抄録

日 時：平成 24 年 9 月 29 日 (土)

場 所：群馬大学医学部 刀城会館

大会長：金井 達明 (群馬大学重粒子線医学研究センター)

〈セッション I〉

座長：若月 優 (放射線医学総合研究所)

1. 縦隔リンパ節転移腫大による気道狭窄を伴う進行食道癌に対して気管内挿管しつつ根治的放射線療法を施行し、CRを得た1例

上野 周一, 高橋 健夫, 山野 貴史

西村敬一郎, 本戸 幹人 (埼玉医科大学

総合医療センター 放射線腫瘍科)

悪性気道狭窄を伴う胸部悪性腫瘍は、根治的治療を施行することに難渋することが多い。今回われわれは強度の気道狭窄を管理しつつ、根治照射を施行しえた1例を経験したので報告する。症例は60歳代男性。他院にてT4食道癌の精査中に106recRの腫大にともなう呼吸困難症状が著明となり当院外科紹介受診し、緊急入院。同日当科依頼あり緊急照射目的に治療計画を試みたが、気道狭窄による呼吸状態の急速な悪化により断念。同日気管内挿管となり、人工呼吸器管理のもと治療計画を行、放射線治療を開始した。20Gy評価時点でのCTにて腫瘍縮小を認めたため抜管となった。40Gy時のCTにて全身状態を含め経過良好となり、総計66Gyの根治的放射線単独治療が完遂できた。治療後の画像効果判定にてCRとなり、独歩(PS0)で退院した。

2. 局所進行直腸癌に対する、IMRTを用いた術前温熱化学放射線療法(HCR)の予備的報告

神保 一樹, 菅原 幸, 岡崎 篤

須田 悟志, 小此木範之, 茂木 政彦

安藤 義孝 (日高病院 腫瘍センター)

浅尾 高行, 桑野 博行

(群馬大院・医・病態総合外科学)

高橋 健夫 (埼玉医科大学総合医療センター

放射線腫瘍学)

中野 隆史 (群馬大院・医・腫瘍放射線学)

【背景】局所進行直腸癌(LARC)に対する術前化学放射線療法、欧米諸国では標準治療として確立されている。しかし、本邦からの報告は少ない。我々は、日高病院と群馬大学医学部附属病院の共同研究として、LARCの術前温熱化学放射線療法(HCR)患者に対する第II相試験を施行している。【方法】放射線治療はTomoTherapy®(日立メディコ)を用い、総線量は50Gy/25回、化学療法はカペシタビンを使用している。臨床標的体積は原発巣を含む直腸と所属リンパ節領域としている。温熱療法は、Thermotron-RF8®(山本ビニタ)により週1回、計5回施行している。運用のために、治療前検査(大腸内視鏡, CT, MRI, FDG-PET/CT)と治療スケジュールを記載したクリニカルパスシートを作成した。今回は、HCR施行におけるクリニカルパスの意義を評価し、HCRによる急性期の有害事象を検討した。【結果】2011年12月からLARC患者10例に対してHCRを施行した。皮膚や下部消化管のGrade3以上の急性期の有害事象は認められなかった。検査日程の遅れ等による入院期間の延長は認められなかった。【結論】LARCに対するHCRは安全に施行でき、かつクリニカルパスシートは計画された治療スケジュールの遂行に重要な役割を果たすと考えられた。